

スマイルまなづる 19号

真鶴町立まなづる小学校

令和2年度学校だより

9月8日発行

【文責 校長 浜口勝己】

【学校教育目標】「自分を大切に 仲間や学校を大切に 町を大切に」

～自立をめざし 自分のよさを生かし まちづくりに参加できる子の育成～

2学期が始まりました。例年より短い夏休みとなってしまいましたが、短いなりの思い出をつくれた子、コロナ禍の中ならではの体験をした子、課題に一生懸命取り組んだ子…いろいろなお話を聞かせてもらいました。熱中症も気を付けなければならないほどの暑さの中、スタートした2学期ですが、子供たちはすっかり学校生活のリズムを取り戻しているようです。

スクールバスもコミュニティバスとの2台の利用に戻り、1便体制になったことから、通常通りの8時20分に朝の会が開始できるようになりました。火曜日のB日課や朝モジュールも復活しました。そのため、ゆとりをもって1時間目を始められるとともに、時数確保という視点からもいくらかゆとりができました。

清掃指導、給食指導も1学期末に引き続き行っています。1年生は6年生のお手伝いも得ながら、児童による配膳を2学期より始めました。6年生も最上級生としての姿を見せてくれています。1年生もここにきていよいよ本来の小学生としての学校生活を送れるようになってきました。

健康観察票の提出による健康チェックや、手洗い・うがい、マスクの着用など、引き続き感染予防対策は行っています。ご家庭におかれましても、毎朝の検温や健康チェック等、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

5年生の宿泊体験学習について

5年生の保護者の皆様には、すでに担任より学級だよりにてお知らせをいたしましたが、今年度、10月に延期をしていた宿泊体験学習は残念ながら中止という措置をとることにいたしました。

足柄ふれあいの村では、1学期中は受け入れを中止していましたが、2学期から新型コロナウイルス対応を踏まえて受け入れを再開することになりました。ふれあいの村よりいくつかの対応策が示されたので、その中でできる活動を模索しながら5年生担任も計画を立てていました。しかしながら、実施の可能性について町教育委員会とも相談をしてみました。「公共の交通機関の利用・町外や長時間の移動を控えるように」という町教育委員会からの通知を受け、また、県内の感染者数についても落ち着いてきているとは言えない状況から、児童同士の泊を伴う活動は控えた方がよいのではないかと判断をいたしました。5年生の児童の思いを考えると、苦渋の決断です。

本来ならば総合的な学習の時間で宿泊体験学習に向けて、準備すべきこと、そこで学習することなどを児童が考えていくのですが、担任とともに気持ちを切り替えてもらい、宿泊体験学習に代わる活動を考えているところです。保護者説明会を含め、保護者の皆様方にも準備等にご配慮いただいていたことかと思いますが、現状を踏まえた中止の判断にご理解いただきたく存じます。

6年生の修学旅行について

延期になっている日光修学旅行ですが、12月1日（火）～2日（水）に実施する方向で動いています。

新型コロナウイルス感染予防対策として、次のような対応を考えています。

- ① 修学旅行専用列車については、隣同士で座ることなく、2席で1人が利用するなど密接を防ぐ。換気ができる車両を利用。
- ② 奥日光の観光で利用するバスについても、2席で1人が利用するようにし、そのため、本来1クラス1台の利用となっているバスを、1クラス2台の利用とする。増発にかかる費用は、日光市の助成金を利用することで、保護者の負担はむしろ軽減される。
- ③ 旅館の部屋も、定員数より少なめの利用とする。
- ④ 旅館での食事、入浴、買い物も、少人数で行うよう、学級内でグループ分けをし、ローテーションを組む。
- ⑤ 2日目の昼食時の買い物、食事も同様にローテーションを組む。また、例年、お替わり自由のカレーライスとなっているが、一人ずつのお弁当形式とする。
- ⑥ 観光先の施設においても、ソーシャルディスタンスを意識した見学を行う。

課題としては、旅行先で発熱等の症状が児童に出た場合の保護者の方のお迎え等についてです。県内の市町村でも、今年度の日光修学旅行を中止するという判断をすでに出しているところもいくつかあります。こちらについては、まだ少し時間があるので、足柄下郡小学校長会でも検討をしていきます。場合によっては、日程や旅行先の再検討を行うとともに、残念ながらこちらでも中止の判断をすることもあることをご了承ください。なお、万が一、中止となっても、キャンセル料等については保護者負担ではなく真鶴町の方で負担する約束となっていることを申し添えます。

児童自身が週の予定表を書く意味

現在、学年によって、児童自身に次週の予定表を記入させています。自分自身で記入することにより、時間割や持ち物を意識させることが主なねらいです。もし記入漏れで忘れ物をしてしまっても、それは自分の責任…という意識ももたせることができます。忘れてしまった場合にどうしたらよいか、次から忘れないようにするにはどうしたらよいかを考えさせることも学びです。1年生のように小学校に入学したばかりで文字の学習自体も始まったばかりの段階では、忘れ物をさせないように担任から配付されたものをもとに大人と一緒に確認をしていくことは大切ですが、徐々に子供たち自身に自覚を促し、忘れ物に対しても自分で責任をもたせることが成長へとつながります。（私は担任をしていたとき、2年生の後半からは週末に次週の予定表の枠を配り、児童自身に記入させていました。これは、私の学級だけでなく私がこれまで担任として在籍していた学校では全体でそのようにしていました。）

保護者の皆様におかれましても、ご心配な面もあるかと思いますが、趣旨をご理解いただいた上でご協力をいただきますようお願いいたします。

文部科学大臣より「新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見の防止に向けて」というメッセージが県内の「児童生徒」ならびに「保護者・地域の皆様」に向けて出されました。小学生にはやや難しい文章となっておりますが、児童に配付しましたので、ご家庭で保護者の方と一緒に読みいただき、その趣旨を受け止めていただければと思います。